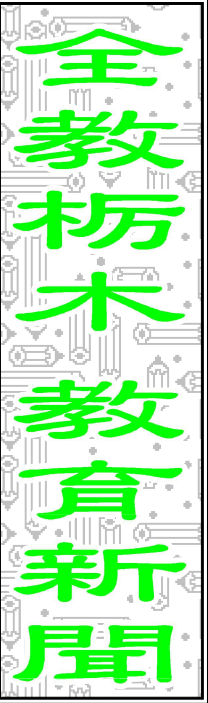


30人学級の実現、教職員の定数増などを求め 全教・教組共闘などが文科省へ9万9689筆の署名を提出!



発行
全栃木教職員組合
宇都宮市兵庫塚3-10-30
TEL 028-653-0353
FAX 028-653-1579
http://
www.zenkyotcg.org
E-mail
info@zenkyotcg.org

21日(土)、22日(日)(雨で順延になった種目は23日)に、中学校の総合体育大会が開催されました。今年度は週休日であるこの2日間で行われ、勤務は「週休日に行われる大会への生徒引率」で処理された地区もありました。(なお、順延となり月曜日に行った種目については『出張』扱い!)

「前4週、後16週」の規則改正は何のため?

県大会の勤務については、県中学校体育連盟の「申合せ事項」があります。「職員の勤務勤務態様」として以下のようになっています。

- (1) 生徒引率の場合 → 出張(学校旅費)
- (2) 大会役員及び審判員等の場合 → 出張(旅費別途)
- ※土・日曜日に出張し振替を取る場合は、各市町教育委員会の規程に準ずること。
- (3) 代表者会議の場合 → 出張(旅費別途)

県大会については上記のように規定しているのです。また、「土・日曜日出張について振替をとる場合」について、今は規則改正がなされ16週間後までに振替をとることが可能になっています。この規則改正で、春季大会、新人大会も長期休業中に振替をとれることになっているのです(この改正が報告された教育委員会では、異動後の職場でもとれることが報告されています)。

高校は大会が多く、このような振替が難しいかもしれませんが、規則改正を各職場で定着させていきましょう。

全日本教職員組合とともに活動する教職員組合などは、2013年度の文科省概算要求に関わって、すべての学校での30人学級、教職員定数増などを求める「えがお署名」に取り組み、25日に文科省へ提出しました。

この行動では、元全日本教職員組合委員長で、その著作が「金八先生」にも使用された、現子ども全国センター代表委員の三上満氏があいさつをしました。三上氏のあいさつを紹介し(録音を元にしています)。

子ども全国センター代表委員の三上満氏



文科省で教育に関わる仕事をしておられる職員・

子ども全国センター代表委員の三上満氏

子ども参加、父母共同の
学校づくりを
長時間過密労働をなくそう
教員免許更新制を廃止させよう

幹部のみなさん、13年度の予算編成にあたって、様々な作業をされていると思いますが、どうか私たちの願いは、子どもを守るための最低の国民的願いだと、受け止めてほしいと思います。私たちは13年度予算に関わる署名を「えがお署名」と名付けました。何よりも私たちが求めるもの、そして何よりもみんながうれいもの、大人たちやお年寄りや社会の人々の宝、それは子どもたちの「えがお」だと思います。どうやったら子

先日来、新聞やテレビで報道されている大津市の中学2年生の自殺事件。事件の裏にはいろいろなことがありますが、同時に先生たちが多忙で追いつまらなくて、子どもたちとゆったりと心豊かに接する時間が失われていること、あるいは子どもたちの間に競争や管理が持ち込まれて子どもたちの心にストレスがたまって

教員免許「えがお」署名!

どもたちの「えがお」が日本中にあふれるようになるのか、放射能で汚染された福島の子どものたちにも、津波で家族や家などを失った子どもたちにも、みんなの力で、とりわけ政治の力で「えがお」を取り戻す、それが今の国に課せられた一番大事な仕事だと、私たちは思っています。



文科省職員に署名を提出する各組織の代表者。

私たちは、子どもたちが「えがお」を取り戻すために、私たち自身の責任を果たしていきます。この8月17日、19日まで、神戸市で「教育のつどい」全国教育研究会集

組合員のいる県南のある職場で、「どんな理由で職員団体に入ったのか」が話題になりました。「付き合いで入っている」と答えた教員。「信念で入っている」と答えた組合員。こう答えた組合員が他の労働組合の役員にこの話を伝えたところ、「組合に入る理由をあれこれ問う必要はない。組合員のこと、これらのこともその背景にあることを、私たちはしっかりと見抜かなければなりません。確かに学校教職員の責任は重大ですけれど、それだけで済まされるのではなく、その背景に子どもたちに、本当に「えがお」を届けていないこの日本社会の構造が、とりわけ教育行政があるということ、私たちがしっかりと声を上げて叫ばなければならぬと思っています。

組合員のいる県南のある職場で、「どんな理由で職員団体に入ったのか」が話題になりました。「付き合いで入っている」と答えた教員。「信念で入っている」と答えた組合員。こう答えた組合員が他の労働組合の役員にこの話を伝えたところ、「組合に入る理由をあれこれ問う必要はない。組合員のこと、これらのこともその背景にあることを、私たちはしっかりと見抜かなければなりません。確かに学校教職員の責任は重大ですけれど、それだけで済まされるのではなく、その背景に子どもたちに、本当に「えがお」を届けていないこの日本社会の構造が、とりわけ教育行政があるということ、私たちがしっかりと声を上げて叫ばなければならぬと思っています。

職場が変わっても、変わらない「付き合い」を

は同じ信念の人ばかりが組織するものではなく、要求で団結するものだから、付き合いも大いに結構なこと」との回答。同じ職場で、それも困難な課題にとともに取り組んだ先生。でも職場が変われば、あいさつを交わすだけ。私たちは職場が変わっても、「きちんと付き合いたい」のです。

が開催されます。日本の教職員はこうした教育研究などを通して、たくさん子どもたちを賢くする、子どもたちを楽しくする知恵をたくさん積み上げてきました。しかし、そのたくさん知恵がなかなか使えない悩みがあります。学校にもっとも大事なことは、自由とゆとりです。この自由とゆとりがあれば、私たちの先輩や私たち自身が積み上げてきていたくさんの教育の知恵を使えることができます。どうか文部科学省で働く職員のみなさんも、このことをしっかりと捉えて、概算要求の中でがんばってくださることを切望して私のあいさつとします。